

令和元年度 東京都江戸東京博物館外5施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名: 東京都江戸東京博物館(分館江戸東京たてもの園を含む)

※評価: ◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理(施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	◎	◎江戸博は日常的な保守点検・修繕に加え、空調機や動く歩道の修繕なども適切に行った。たてもの園は歴史的建造物である三井邸の土蔵補修、植村邸・村上精華堂の瓦修繕等を適切に行った。 ◎江戸博、たてもの園ともに台風後の雨漏り対応や損害の修理を迅速に行い、影響を最小に留めた。特に江戸博においては台風により建物高所部の庇パネルに不具合が発生したが、都への報告と並行して迅速に応急措置を取った。 ◎個人情報の紛失・漏洩等の事故はなく、法令を遵守した適切な対応がなされている。
		(2)危機管理(防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	◎	
		(3)組織体制(人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○	
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○	
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	○購入した備品について適切に都に報告を行った。また実施計画に基づき収蔵品の状況確認を行った。
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理(収集、分類整理、記録、保管)	東京都「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集するとともに、適正な環境で保管する。	×2	○	○資料の収集にあたり、シリーズもので欠けていたものを補い、また所有者と信頼関係を築き貴重な資料の寄贈を受けるなど、学芸員の継続した収集活動により質の高い作品を収集した。 ○収蔵品の画像化(デジタル化)を進めることができた。 ◎夏休み期間中に実施した企画展「いきものがたり」では、子供向けミュージアムトークや玩具絵作成のワークショップを休日に実施するなど、子供の来館を促す工夫を行った。日中韓博物館国際シンポジウムに合わせてソウル博物館との交流展「18世紀ソウルの日常—ユマンジュ日記の世界—」展を企画展として実施し、18世紀のソウルの日常を紹介した。特集展においては、邦楽公演に関連したものや、没後60年の永井荷風を扱ったものなど等、時宜にかなった多様な企画を実施した。 ◎館蔵資料のみで構成した「江戸の街道をゆく」展、オリパラの機運醸成を図った「江戸のスポーツと東京オリンピック」展、サムライの新たなイメージを浮き彫りにした「土サムライ」展、海外から多くの貴重な資料を里帰りさせ、充実した内容となった「大浮世絵」展、日本の職人に光を当て、ベニス東洋美術館所蔵の貴重な資料を展示した「江戸ものづくり列伝」など、江戸博ならではの独自の切り口で質の高い展覧会を実施した。 △「土サムライ」展、「大浮世絵」展の観覧者数は目標を大きく下回った。新型コロナウイルスの影響を考慮しても全体として年間の観覧者数は減少しており、特別展の質を維持したまま観覧者数を増やす工夫が求められる。 ◎たてもの園では、「下町夕涼み」に向けて一般の方も対象とした盆踊り練習会を計13回新たに実施するなど工夫し、昨年度より来園者数も増え盛況だった。「紅葉とたてものライトアップ」では、天候により来園者数は伸びなかったものの、新たに西川家別邸で寄席を実施したり、文様切り紙づくりの展示場所として吉野家を追加するなど、情景再現事業の内容を充実させた。 ◎江戸博、たてもの園ともに様々な展示解説や講座を行った。また江戸東京博物館では新たな取組として、「えどはく寄席スペシャル」と称し、ホールを活用して寄席、住吉踊り、邦楽、大衆歌謡など、様々な実演を行った。 ○図書室の運営については利用促進の取組が求められる。 ◎日中韓博物館国際シンポジウムの開催、ソウル歴史博物館との共同による企画展「18世紀ソウルの日常」の開催、ICOM京都大会での発表やポストカンファレンスツアーの共催など、国際的な連携・協力に取り組んだ。 ○たてもの園では、「下町夕涼み」の前売り券を園のみで販売していたが、小金井市観光まちおこし協会に協力を依頼し、武蔵小金井駅付近の協会事務所で前売り券の委託販売を行うことで入場待機列の解消に繋げるなど、地域連携により利用者サービス向上に努めた。 ○9月のホールリニューアル記念公演では、様々なジャンルの伝統芸能を解説付きで実施するなど、伝統芸能発信に取り組んだ。今後はホールの認知度向上が求められる。 ○ニコニコ動画を活用した生配信などの取組は評価できる一方、特別展の観覧者数は減少していることから、広報についてはさらに踏み込んだ取組が求められる。
		(2)資料の活用(貸出・借受外、資料情報システム、映像ライブラリー等)	作品貸与や公開に積極的に取り組むなど、収蔵作品の効率的な活用を図る。	×2	○	
		(3)調査・研究	江戸東京の歴史と文化に関する魅力あふれる研究を実施するとともに、収蔵品の調査研究活動の成果や資料情報を広く国内外に発信する。	×2	○	
		(4)常設展・企画展の内容	収蔵資料や複製資料を効果的に活用し、楽しく親しみやすい展示を行うことで、江戸東京の歴史と文化の多彩な魅力を発信する。	×2	◎	
		(5)常設展・企画展の入場者数	観覧者数 90万人以上。	×1	○	
		(6)特別展等の内容	魅力的かつ質の高い企画内容で世界から訪れる人びとが注目するような特別展を開催し、ファン層の増加を図る。	×2	◎	
		(7)特別展等の入場者数	観覧者数 426,550人以上。	×1	△	
		(8)たてもの園の事業内容	復元建造物を活かし、江戸東京の生活や商いの諸相を再現し、歴史や文化を体験してもらおう。	×2	◎	
		(9)たてもの園の入場者数	観覧者数 25万人以上	×1	○	
		(10)教育普及事業	講座や体験事業など、幅広い年齢層に江戸東京の歴史と文化を学べる環境を提供する。	×2	◎	
	(11)図書室の運営	江戸東京に関する図書や定期刊行物を広く収集し、提供する。	×1	○		
	(12)その他の事業	ボランティアの活用や友の会の運営等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○		
	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の博物館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎	
		(3)地域連携	地域と連携した事業や広報活動を行っている。	×2	○	
(4)施設及び附帯設備の貸出		伝統文化等を国内外に向けて発信する等、幅広い用途で貸出を行う。	×1	○		
(5)広報、プロモーション		HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	○		
施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	◎	◎江戸東京博物館においては、大・小ホールの舞台脇に段差解消機を新たに設置した。たてもの園においては太鼓橋を車椅子で通れるよう改修したり、簡易授乳室の設置、触察模型(吉野家、小出邸、武居三省堂)の製作など、さらにバリアフリー化を進めることができた。	
	(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○		
	(3)館内サービス(基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○		
	(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○		
	(5)その他(利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○		
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○質の高い企画展、特別展を実施している一方で、特別展の観覧者数は新型コロナウイルスの影響を考慮しても定量目標を達成しているとはいえない。 ○大・小ホールのオープン、オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成など、時期に合わせて多彩な事業を実施している。

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
61	A

標準点	評価基準	S	62点以上
		A	58～61点
46点	B	41～57点	
	C	40点以下	

指定管理者の財務状況	
財務諸表等から判断し、指定管理者の財務状況に特に問題はない。	

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

特記事項	
要改善事項等	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

令和元年度 東京都江戸東京博物館外5施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名: 東京都写真美術館

※評価:◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○限られた職員数のなかで、ホスピタリティ向上のために受付の人数を増員し、混雑時には更なる効率的な配置を行っている上に、学芸ミーティングの実施などでスタッフ間の情報共有を積極的に行っており、館の効率的かつ発展的な運営を行っている。 ○個人情報の研修をスタッフ全員に対して行っている。 ○企画諮問会議と外部評価委員会を実施し、館運営への活用を行っている。
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○	
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○	
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○	
管理状況	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	◎支援会員の減少こそあったものの目標値を超えた会員数を維持している上、芸術文化振興基金の獲得など積極的な取り組みがみられる。
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金や支援会員制度等を通じた外部資金獲得に積極的に取組む。	×1	◎	
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○	
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (収集、分類整理、記録、保管)	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集するとともに、適正な環境で保管する。	×2	○	◎日本初期写真史においては、大学との共同研究を行い、論文の執筆も行っている。また、クリーニング法の研究においては、文化財保存修復学会において、写真分野への使用事例がほとんど報告されてこなかった研究法の発表を行った。また、台風19号で被災した川崎市市民ミュージアムの浸水被害に際して、収蔵作品資料の救済支援等を行ったことで、研究成果の社会的還元を行っている点は高く評価できる。 ◎多彩な切り口での展覧会を開催し、新規層の獲得に成功している。嶋田忠 野生の瞬間では、親子連れなど初めての来場者が多くみられた。恵比寿映像祭では「ハナビリウム」の展示などによる幅広い層への訴求が功を奏し、来場者数の目標値を大幅に超えた。 ◎対象年齢や関心の度合いに応じた教育普及事業を広く実施しており、展覧会に伴う講演会もギャラリートークもそれぞれ100回近く行っている。
		(2)資料の活用 (貸出・借受外、資料情報システム等)	作品貸与や公開に積極的に取り組み、収蔵作品の効率的な活用を図る。	×2	○	
		(3)調査・研究	国際的な視点を踏まえた調査研究を行い、その成果を紀要やシンポジウム等で都民に還元する。	×2	◎	
		(4)収蔵展の内容	収蔵作品を最大限活用し、質、満足度ともに高い展覧会を開催する。	×2	○	
		(5)収蔵展の入場者数	来場者数120,550人以上。	×1	○	
		(6)自主企画展、実験劇場、国際交流事業等の内容	多様な切り口での魅力的な展覧会を開催する。	×2	◎	
		(7)自主企画展、実験劇場、国際交流事業等の入場者数	自主企画展来場者数123,540人以上、実験劇場来場者数47,770人以上。	×1	○	
		(8)教育普及事業	写真愛好家だけでなく、子供、シニア層など対象者の年齢や関心の度合いに応じた多様な教育普及事業を実施する。	×2	◎	
		(9)図書室の運営	写真・映像の専門図書館として、作家・他美術館とのネットワークを活かした収集等を行う。	×1	○	
		(10)その他の事業	ボランティアの活用等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○	
事業効果	運営の実施状況	(1)休館日及び閉館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	◎あらかるちゃーにおいては渋谷周辺の文化施設との連携した事業をおこなっている。恵比寿映像祭では恵比寿ガーデンプレイスや近隣のギャラリーとの連携にとどまらず、日仏メディアアートのフェスティバル、デジタル・ショックとの共催企画など、幅広い連携活動を行っている。 ◎SNSを積極的に利用した上に、HPIは4か国語での更新を継続し、年間500万PV以上を達成している。また、「日本初期写真史」では、展示風景・作家インタビューなどを交えた動画を作成したほか、ニャイズと「日本初期写真史」の解説動画のコラボツイートなど、視聴者を飽きさせない工夫がされた広報企画がされている。
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	○	
		(3)地域連携	地域と連携した事業や広報活動を行っている。	×2	◎	
		(4)施設及び附帯設備の貸出	1階ホールの稼働率90%以上、誘致展の来場者数88,140人以上。	×1	○	
		(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	◎	
施設サービスの実施状況	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○	◎特別支援学校を対象とした鑑賞教室や手話対応のできる職員の配置など、バリアフリーに対するサービスを向上させた。 ○ホスピタリティ向上のため、研修やミーティングなどを積極的に行っている。
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	◎	
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○	
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○	
		(5)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○	
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づき、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○おおむね各定性・定量目標を達成しており、殊にサービス向上のための人員配置や多言語対応においては、目標達成に拘らない柔軟な事業運営がなされている。また、事業計画に基づき、展覧会等の事業が適切かつ継続的に行われている。

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
55	A

標準点	評価基準	S	58点以上
		A	54～57点
43点	B	38～53点	
	C	37点以下	

指定管理者の財務状況
財務諸表等から判断し、指定管理者の財務状況に特に問題はない。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

特記事項	
要改善事項等	

令和元年度 東京都江戸東京博物館外5施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名: 東京都現代美術館

※評価:◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由			
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○委託業者と定期的な連絡会をもちながら、施設の保守点検・修繕を行い、リニューアルオープン後の初年度を大きなトラブルなく適切に運営した。 ○オリンピック・パラリンピックに向けて、全来館者に対する手荷物検査を試行的に実施したほか、監視カメラを増設するなど館全体のセキュリティ強化を図った。また、地元消防署の監督のもと建物委託管理会社と防災訓練を行うなど、来館者の安全確保に着実に取り組んでいる。			
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○				
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○				
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○				
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○				
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	◎ユニークベニューの貸出により約3,000万円の収入を獲得するなど、展覧会入場料以外での収入を堅調に獲得している。			
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等を通じた外部資金獲得に積極的に取り組む。	×1	◎				
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○				
		事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (収集、分類整理、記録、保管)	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集し、適正な環境で保管する。		×2	○	○約5,400点に及ぶ収蔵作品の総目録を整備し、関係機関300箇所へ配布することで館が保有する多彩なコレクションを外部に広くアピールしている。 ◎エントランスを使ってファッションショーを実施した「ミナ ベルホネン」展や、「遊び」を切り口に体験型作品等を展示し広い世代の関心を集めた「あそびのじかん」展など、多様で話題性のある企画展を開催した。 ◎企画展の入場者数については、新型コロナウイルスの感染拡大を受け3つの展示が中止となったが、「ミナ ベルホネン」展など話題性のある展示が当初の目標を大きく超える集客を集めた。年間でも400,000人以上を集客し、目標の入場者数を大きく上回った。 ◎美術館の内外を使った体験型アクティビティなど、工夫を凝らしたプログラムを通じて美術館に親しむきっかけづくりを積極的に行っている。MOT美術館講座での全回手話通訳の導入など、障がいの有無に関わらず美術に向き合うことができるプログラムを実施している。 ◎美術図書館の利用者数は、目標値を大幅に超える168.3%を達成した。新設のこどもとしよつは、子供をターゲットにした「あそびのじかん」展などとの相乗効果もあり、普段美術館になじみがない小さな子供を持つファミリー層も館に呼び込んでいる。 ◎新しく導入したパスポート制(MOTパスポート)であるが、すぐに当初予定の枚数を売り上げるなど好評を得ており、ファン層の拡大やより気軽に館を訪れるきっかけづくりに貢献している。ガイドボランティアの高齢化などをかんがみ、新規スタッフの募集・選考と養成研修を行っており、事業を持続的に実施していくために適切に取り組んでいる。
				(2)資料の活用 (貸出・借受外、資料情報システム等)	作品貸与や公開に積極的に取り組み、収蔵作品の効率的な活用を図る。		×2	○	
(3)調査・研究	国際的な視点を踏まえた調査研究を行い、その成果を紀要やシンポジウム等で都民に還元する。			×2	○				
(4)常設展の内容	常設展の実施を通して現代美術の成り立ちや魅力を紹介する。			×2	○				
(5)常設展の入場者数	130,000人以上。			×1	○				
(6)企画展等の内容	国内外で注目される幅広いテーマやジャンルから選んだ企画を実現し、多様で魅力的なラインナップで開催する。			×2	◎				
(7)企画展等の入場者数	300,000人以上。			×1	◎				
(8)教育普及事業	学校向けのプログラムや鑑賞プログラム、ワークショップなど多様なプログラムを展開する。			×2	◎				
(9)美術図書館の運営	国内有数の規模を誇る美術専門図書館として専門性を高めるとともに、「こどもとしよつ」等の新設機能も積極的に活用する。			×1	◎				
(10)その他の事業	ボランティアの活用等、その他の事業についても適切に実施している。また、ファン層の拡大に向け、パスポートの戦略的な運営を図る。			×1	◎				
事業効果	運営の実施状況	(1)休館日及び閉館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	◎東京2020大会に向け都やIOGと連携して実施した公式アートポスター展では、その話題性に加え展示方法などの工夫もあり、非常に多くの来場者を迎え、大会開催への機運醸成に大いに貢献するとともに、館の魅力を知らせてもらうきっかけをつくることができた。 ◎リニューアルオープン後初のMOTサテライトであるが、新たに館をメインの会場と設定しつつ、まちなかの展示スポット、ワークショップ会場と館を回遊する仕掛けづくりを行っている。その結果、多くの参加者を集めることに成功するとともに、館と地元の連携・協力体制のより一層の発展が実現している。 ◎リニューアルオープンによる元々の注目度の高さもあつたが、SNSをこまめに更新(年間ツイート数370件)するなど地道な情報発信も功を奏し、HPアクセス数やSNSフォロワー数の大幅な増加を実現した。			
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎				
		(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2	◎				
		(4)施設及び附帯設備の貸出	幅広い用途にて貸し出しを図るとともに、リピーターを増やすことで、稼働率向上を図る。	×1	○				
		(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	◎				
	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	◎				
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○				
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○				
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○				
		(5)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○				
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	◎	◎常設展、企画展ともに新型コロナウイルスの影響をうけながらも十分な入場者数を確保している。 ◎バリアフリーやホスピタリティを指向したワークショップや館内案内が実現している。			

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
61	S

標準点	評価基準	S	58点以上
		A	54～57点
		B	38～53点
		C	37点以下

指定管理者の財務状況
財務諸表等から判断し、指定管理者の財務状況に特に問題はない。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

特記事項	
要改善事項等	

令和元年度 東京都江戸東京博物館外5施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名: 東京都美術館

※評価:◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○手荷物検査をサミット・ラグビーW杯時に合わせて10回実施し、オリンピック・パラリンピックの本実施に備えている。 ○公募展示室内に防犯カメラ、建物外周に赤外線センサーを設置し、防犯への配慮を行っている。 ○各種研修への参加、他館への実地調査等を行い、情報収集に積極的に取り組んでいる。 ○開示請求については、財団の情報公開要綱に則り、適切に対処した。 ○情報セキュリティに関してチェックリストによる点検を年3回実施し、意識強化を図った。
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○	
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○	
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○	
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取組む。	×1	○	
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○	
		(4)資料の管理 (分類整理、記録、保管)	適宜調査や補修等を行い、収蔵品を適切に管理している。	×1	○	
		(5)資料の活用 (貸出・借受外)	他の都立文化施設の収蔵資料を活用することで、鑑賞の機会を提供し、有効活用を図る。	×2	○	
事業効果	事業の実施状況	(3)調査・研究	館独自の事業に関わる調査研究等を行い、その成果を広く社会に還元する。	×2	○	
		(4)特別展の内容	多様な視点で時代や地域を紹介する、質の高い芸術作品を用いた展覧会を開催する。	×2	◎	
		(5)特別展の入場者数	入場者数 85万人以上。	×1	◎	
		(6)企画展の内容	創造や共生の場となり、「生きる糧としてのアート」と出会える場になるような展覧会を開催する。	×2	◎	
		(7)企画展の入場者数	入場者数 24,500人以上。	×1	◎	
		(8)教育普及事業(アートコミュニケーション事業)	プログラムの充実や他の自治体及び他館への普及を図る。	×2	◎	
		(9)美術情報室、アートラウンジの運営	美術情報室について、ライブラリー機能に、館のアーカイブズの役割を加え、より広範で深い美術情報を提供する場とする。	×1	○	
		(10)その他の事業	公募展活性化事業等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○	
		運営の実施状況	(1)休館日及び閉館時間	ニーズを踏まえ臨時閉館や開館延長を行っている。	×1	◎
			(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎
(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。		×2	○		
(4)施設及び附帯設備の貸出	公募展示室稼働率 100%及びその他貸出施設等についても有効活用に努める。		×1	○		
(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。		×2	○		
施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○		
	(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○		
	(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○		
	(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	△		
	(5)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○		
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標		×2	◎	◎新型コロナウイルスの感染拡大防止のために休館に追い込まれるという事態となった。しかし、休館迄の間に課題・目標はほぼ達成されていた。評価の高いアートコミュニケーション事業においても現状維持だけではなく、地域的にも国際的にも広げていくように努めている。

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
54	A

標準点	評価基準	S	56点以上
42点		A	53～55点
		B	37～52点
		C	36点以下

指定管理者の財務状況
財務諸表等から判断し、指定管理者の財務状況に特に問題はない

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

特記事項	
要改善事項等	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

令和元年度 東京都江戸東京博物館外5施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名:東京文化会館

※評価:◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由	
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	◎大ホール、小ホールともに高い稼働率を維持しながら、保守点検と必要な修繕を着実に実施し、施設を適切に維持管理している。 ◎監視カメラの増設や計10回に及ぶ手荷物検査の実施など、ハード・ソフトの両面でセキュリティ強化に取り組んでいる。災害への備えとしては、図上訓練や災害リスクコンサルタントを講師に招いた実地訓練を行うなど、来館者の安全を確保するためにできる取り組みを積み重ねている。また、10月の台風では一時滞在施設を開設し、避難者の受け入れを行った。 △個人情報の管理において一部不適正な点があったため、一層の危機意識の向上と未然防止の仕組みづくりに取り組む必要がある。	
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	◎		
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○		
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	△		
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○		
管理状況	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	◎外部資金として、平成30年度に採択された文化庁の助成金(機能強化総合支援事業)のほか、民間からの助成金及び協賛金も目標を超える金額を獲得している。個人からの資金獲得に向けて2021年から賛助会制度を新たに導入予定であり、そのための制度設計や詳細検討などに取り組んだ。	
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取組む。	×1	◎		
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○		
事業効果	事業の実施状況	(1)施設の貸出 (大ホール、小ホール)	大ホール稼働率 9割以上、小ホール稼働率 8割以上。	×2	◎	◎大ホール、小ホールの稼働率について、公演主催者に空き日程での公演を働きかけるなど稼働率向上のための地道な努力を重ねることで、どちらも目標を達成した。 ◎オペラ夏の祭典「トゥーランドット」は、新国立劇場との共同制作として、世界的な演出家や歌手を迎え非常に質の高い公演を実現した。動員人数の面でも、その話題性に加え、各劇場と連携して広報活動を行ったことで、約20,000の観客を集めることができた。一方で、地元商店街との共催であるオペラBOX「泣いた赤おに」では、普段オペラに触れる機会の少ない子供とその親を劇場に呼び込むなど、利用者の多様化に貢献している。自主事業全体でみても、来館者数約99,000人(目標値比152.2%※音楽資料室利用者数含む)を達成した。 ◎東京音楽コンクールは、公開審査の入場者数が過去最高を記録するなど多くの注目を集めており、優れた人材の発掘とその後の活躍につなげる重要な役目を果たしている。 ◎アウトリーチコンサートを青ヶ島で初めて行うなど、都市部以外の学生にも芸術に触れる機会を提供するために尽力している。高齢者施設や特別支援学校において、東京文化会館ワークショップリーダーによるオリジナルワークショップを実施するなど、社会包摂や社会的課題の解決に向け、先駆的に取り組んでいる。	
		(2)施設の貸出 (リハーサル室、会議室等)	会議室等について積極的な貸出を行う。	×1	○		
		(3)芸術文化の振興に関する事業 (創造・発信)	質の高い創造を行い、全国への幅広い成果の波及を図る。	×2	◎		
		(4)芸術文化の振興に関する事業 (育成・支援)	才能を持つ新進・若手音楽家等を発掘、起用し育成を図る。	×2	◎		
		(5)芸術文化の振興に関する事業 (次世代への投資)	ワークショップ・アウトリーチ活動を積極的に行う。	×2	◎		
		(6)音楽資料室の運営	利用実態等を踏まえた運営を行い、顧客満足度を向上させる。	×1	○		
		(7)その他の事業	友の会の運営等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○		
	事業効果	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1		○
			(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他のホール・劇場等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2		○
			(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2		○
			(4)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2		◎
	事業効果	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2		○
			(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1		◎
			(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1		○
			(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1		○
(5)その他 (利用促進に向けた新たな取組)			利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○		
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	◎	◎施設を適切に維持・管理しながら、ホスピタリティの向上にも努めており、「音楽・舞台芸術の殿堂」にふさわしい良質な公演の鑑賞機会の提供を実現している。 ◎次世代への音楽文化の教育普及や社会包摂といった今後より一層重視されるであろう課題にも、先駆的に取り組んでいる。	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
52	S

標準点	評価基準	S	50点以上
37点		A	47~49点
		B	33~46点
		C	32点以下

指定管理者の財務状況

財務諸表等から判断し、指定管理者の財務状況に特に問題はない。

特命要件の継続

特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

特記事項	
要改善事項等	

令和元年度 東京都江戸東京博物館外5施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名:東京芸術劇場

※評価:◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	◎	◎プレイハウス舞台音響EMG回路の工事や、地下2階ダクトスペースの工事など、緊急性が高いものや館運営に影響がおよぶ等の修繕工事も事前協議により、確実に実施しており、適切な管理運営が可能となるよう、施設設備等の管理に対する意識が高い。 △年4回の自衛消防訓練に加えて、地域の訓練にも参加し、積極的な危機管理に対する姿勢が見てとれる。一方で鍵の取扱いにセキュリティ上問題のある点があったため、今後は一層の改善が望まれる。
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	△	
(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)		限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○		
(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組		個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○		
(5)業務の品質管理と自己評価		外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○		
財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	◎平成30年度に採択された文化庁の助成金(機能強化総合支援事業)のほか、協賛金など引き続き外部資金の獲得及び活用が積極的に行われている。 ○基本協定等にとり適切に物品等を管理している。	
	(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取り組んでいる。	×1	◎		
	(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○		
事業効果	事業の実施状況	(1)施設の貸出 (大ホール、中ホール、小ホール)	稼働率について、大ホール 62%以上、中ホール 87%以上、小ホール1 96%以上、小ホール2 94%以上。	×2	◎	◎コンサートホールでのシアターオペラや午前コマを利用したランチコンサート等の実施により、各ホールで引き続き高い稼働率を維持している。 ◎一度利用した団体等へ再利用の声掛けを行うことで、展示室89.9%、リハーサル室69.8%と近年より高い稼働率を記録した(平成26年度から平成30年度の平均稼働率は展示室80.88%、リハーサル室59.52%)。 ○音楽事業において、フィルハーモニア管弦楽団来日公演に伴いVRIによるオーケストラ体験の機会を提供するなど話題性のある事業を展開した。 ◎舞台芸術事業において、読売演劇大賞の最優秀賞に選ばれた「Q」など質の高い事業を実施した。また、台北、ニューヨークで「One Green Bottle」を上演し、国際的な事業展開を行った。 ○ベビーオペラ「ムルメリ」を招聘するなど、「サラダ音楽祭」に全面的に協力した。 ○一連のオルガン・ア・ラ・カルト事業において、来場者数、満足度、初来館者数で目標を達成し、客層の裾野を広げた。
		(2)施設の貸出 (展示室、リハーサル室、会議室)	展示室やリハーサル室等について積極的な貸出を行う。	×1	◎	
		(3)芸術文化の振興に関する事業 (音楽)	質の高い事業を発信しつつ、地方館との連携強化や国際的な事業展開を行っている。	×2	○	
		(4)芸術文化の振興に関する事業 (舞台芸術)	質の高い事業を発信しつつ、地方館との連携強化や国際的な事業展開を行っている。	×2	◎	
		(5)芸術文化の振興に関する事業 (育成・支援)	次代の舞台芸術を担う人材の育成事業を積極的に企画・実施している。	×1	○	
		(6)芸術文化の振興に関する事業 (次世代への投資)	劇場を身近に感じてもらえるような教育普及プログラムを企画・実施している。	×1	○	
		(7)芸術文化の振興に関する事業 (劇場の賑わい創造事業ほか)	多様な人々がともに参加できる、楽しく賑わいのある空間を創出する。	×1	○	
		(8)パイプオルガンの保守・管理及び活用	パイプオルガンを活用し、オルガン音楽の魅力を普及させる。	×1	○	
		(9)その他の事業	水天宮ピットの運営等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○	
	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	◎豊島区が展開する「東アジア文化都市」事業のラインナップの一つとして中国から「リチャード三世」、韓国から「ボッコちゃん」を招聘するなど、地域連携を積極的に行った。また、隣接する池袋西口公園の改修へも協力した。フィルハーモニア管弦楽団のコンサートでは、西口公園と協力してプロモーションを行った。 ○新聞・雑誌などのメディア掲載に関する個別目標をすべて達成した。引き続き広報物の誤記については留意されたい。
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他のホール・劇場等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	○	
		(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2	◎	
		(4)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	○	
	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	◎	◎コンサートホール3階及び地下鉄連絡通路の手すり設置などの多くのバリアフリー化工事を実施し、多くの人に利用しやすい劇場作り貢献した。 ◎複数言語のパンフレットの作成、視覚障害者用の音声付き点字案内板の設置など、案内・表示についても多くの人にわかりやすいものに改善した。 ○福祉サービスは例年外部評価・満足度ともに高い水準を維持している。
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	◎	
(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)		商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○		
(4)館内ホスピタリティ、苦情対応		委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○		
(5)その他 (利用促進に向けた新たな取組)		利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○		
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○新型コロナウイルスの影響により落ち込んだ入場者数を除けば定量目標はすべて達成しており、定性目標についても、施設の維持管理に対する意識が高く、国際的な事業、地域連携及び人材育成と、それぞれの分野で充実した事業を展開している。

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
49	A

標準点	評価基準	S	51点以上
38点		A	48~50点
		B	34~47点
		C	33点以下

指定管理者の財務状況
財務諸表等から判断し、指定管理者の財務状況に特に問題はない。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

特記事項	
要改善事項等	